

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。議長より登壇の許可を得ましたので、ただいまより私、小柳の一般質問を始めさせていただきます。

きょう朝起きてから、新聞に目をやれば、一面記事に「がれき受け入れ要請決議 武雄市議会が可決」ということの見出しを目にしたわけでございます。また、その後、テレビに目を配ってございましたならば、また、あってはならない東北、北海道でマグニチュード6.7の地震が起きたというようなことで、だれでもが「またか」という心配の中ではなかろうかというふうに思っております。

東日本大震災から1年がたち、3月11日現在の警視庁のまとめで1万5,854人の犠牲者を出し、それから、いまだ3,155名の行方不明者がおられます。避難移転者は2月23日現在の復興庁のまとめでは34万3,935人の方がおられ、犠牲者への御冥福と不明者の方々の早期発見を、そして、津波により家屋を失われた、原発事故により避難されておられる方々の震災前の生活に戻られることを願うものであります。

さて、今回の私の一般質問は、1番目に、周辺部として高齢者対策、そして2番目、安全・安心、その内訳は空き家対策、青少年犯罪の実態、交通マナー、交通マナーも自転車マナーを取り上げております。3番目に、教育行政について、いじめと不登校、そして、校舎並びにグラウンドの周辺の施設管理について問いただしていきたいと思っております。最後に、飛龍窯について、大きく分けて4つの項目で質問をさせていただきます。

まず、周辺部における高齢者対策についてですが、今現在、超スピードで高齢化社会に突入し、間もなく65歳以上の方々が総人口の4分の1に値する高齢者社会が到来すると報道されております。

そこで、武雄市において現在の65歳以上の高齢者人口はどのようになっているのか、そして、5年後、10年後の高齢者人口の推移はどのように進んでいくのかを質問いたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁に入ります前に、小柳議員から震災瓦れきの、きのうの決議の件で私のところにもいろんな御意見等がありましたので、もし、お許しいただけるならば、私のほうから今の私の考えを述べたいと思っております。

昨日の武雄市議会の決議を受けて、多数の、決議を受けまして、きのうプレスには私のコメントを申し上げたところであります。すなわち、武雄市議会の決議については重く受けとめますと。しかしながら、その中で、今たびたび私も申し上げていますが、広域法制の整備が絶対に必要であると。黒岩幸生議員が常々おっしゃっております不安を取り除く放射線の基準、これは国際的基準に則した基準が私も望ましいというふうに思っておりますけ

れども、いずれにしても、その法定基準、そして、これに基づく各都道府県への割り当てを含む法定計画をきちんと広域法制の中に書き込むこと。こういったことを前提として、そして、地元においては地元住民の皆様方の御理解と御協力が前提、この2つの柱がきちんと図られることを条件に、前提に、私どもとしては震災瓦れきの受け入れについては前向きに行うと、すなわち表明をしたいというふうに思っておる次第であります。

一方で、きのう申し上げましたけれども、内閣総理大臣の要請の文書が近々佐賀県知事を含む都道府県知事のほうに来ると、受達をするというふうに聞いております。そういった中で、私は国、県に改めて求めますけれども、説明会をきちんとしてほしいということであり、特に処理場を有する各首長を含めたオープンな会議の場で、国は今回の内閣総理大臣の通知文について、あるいはどういったことを私たちに求めるのかというのは、国の責任のもとに説明会を行うことが肝要かと思っておりますので、これはまた機会を見て、佐賀県知事並びに国のほうにきちんと申し上げたいというふうに思っております。

一方で、昨日の決議を受けて、きょうの朝もいろんな方々から私のほうにありました。きょう朝出てくるとき、取り囲まれたですもんね。そしたら、変わりましたね。前、取り囲まれたときは、みんな反対でしたけど、今回は全部賛成でした。前、反対しとった方々も今回は賛成であるということなんですね。だから、やっぱり武雄市議会の決議は大きいですよ。もうこれはこの場をかりて御礼を申し上げたいと思いますし、なおかつそういう温かいお志というか、その目線というのは、きのう東北の、名前は上げませんが、ある首長さんから、本当にありがたいという言葉が賜った次第であります。

そういった中で、今アポ取りをしておりますけれども、早晚、朝日町の区長会の皆様方に集まっていただきます。集まっていただいた上で、きのうの決議の内容、これについては地元の吉川議員、山口良広議員、そして、賛成していただいた吉原議員にきちんとその決議文書について説明をしていただくと。その一方で、きょう申し上げましたけれども、市を代表した私の考え方をその場で申し上げたいと思っております。

こういった地道に一步一步地元の理解を進めるということが、今回の震災瓦れきの受け入れについても非常に大事なことだと思っておりますので、それは慎重に進めてまいりたいと思っております。

小柳議員にはちょっと申しわけないですけれども、多少長くなりました。最後になりますけれども、この決議を受けて、私は一步前進だと思っておりますので、また、武雄市議会のさらなる御理解と御協力をお願い申し上げまして、私の説明にかえさせていただきます。よろしくお願ひします。

それで、御質問については担当部長から答弁をいたさせます。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

市内の65歳以上の方の人口でございますけれども、2月末の時点です。1万2,896人です。住民基本台帳の人口が5万1,401人ですので、ちょうど高齢化率というのは25%ということになります。

それから、5年後、10年後ということで御質問いただきましたけれども、数字のある分でご説明させていただきたいというふうに思いますけれども、2年後の26年で1万3,620人、この時点の高齢化率が27.14%というふうに見込んでおります。さらに、5年後の平成31年には高齢者の人口が1万4,642人、同じく高齢化率については30.36%というふうに見込んでおるところでございます。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

ありがとうございます。今、平成26年度は27%ぐらいですか。そして、31年度では30%ぐらいですかね。（発言する者あり）はい、ありがとうございます。

その次に……（発言する者あり）

○議長（牟田勝浩君）

すみません、私語を慎んでください。

○16番（小柳義和君）（続）

今回の私の質問は短く質問していきたいと思いますが、独居老人者数は武雄市ではどのようになっているのか、わかれば町別の説明をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。お願いします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

独居の高齢者の数でございますけれども、昨年5月末の数字でございますので御報告申し上げますけれども、全体では1,987名いらっしゃいます。町別に申し上げます。武雄町631人、橘町73人、朝日町235人、若木町47人、武内町113人、東川登町117人、西川登町60人、山内町314人、北方町397人、以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

ありがとうございます。武雄市全体では、前年に比べて62名がふえたということですね。それでは、次に、体の不自由な方で生活に困っておられる方の世帯についてはどのように

なっているのか、お尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

障がいをお持ちの方ですね、手帳をお持ちの方が3,326名いらっしゃいます。この中で、いろいろなサービスを受けていらっしゃる方がいらっしゃるわけですが、全体ではこのうち353人がサービスを受けていらっしゃるということで、内容につきましては、居宅介護、家事援助、生活介護、短期入所、そういった日中一時介護等々のサービスを受けていらっしゃる方が353人ということでございます。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。なぜ私は今このように細かく切ってお尋ねをしているかということは、今からの私の質問になるわけですが、周辺部のお年寄りの方から、昔と比べて変わったねということが私の耳に入ったわけでございます。昔は各町で買い物のすべてができたばってん、今では武雄まで出ていかんばいかんもんねと、これは武内のことですけれども。武雄まで行けば、何でも買えるけれども、ごっとい行けんと、行くことのできないと。というようなことで、私は、みんなのバスのあるたいねというようなことで話をしていたならば、それは武雄まで行かんよと、武内だけで終わりよと、というようなことがあって、そこでお年寄りで体の不自由な方は大変よということであったわけでございます。

そこで、お年寄りの方で買い物にもなかなか行けない、または体が不自由な方々の買い物サポートを行政ではどのようにお考え、どのような対応をしておるか、説明をお願いします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

先ほど御紹介いただきましたとおり、みんなのバス、こういったサービス、サービスといえますか実験運行をやっているというところでございますけれども、私どもとして公的にやっておりますのは、1つは介護保険がございますね。介護保険でホームヘルパーの方に行ってもらって、買い物等を支援していただくとか、これは介護保険制度、あるいは障がい者の支援という形でさせていただいております、家事援助等々もさせていただいております。さらには、食事の関係で言いますと、配食サービスとか、そういったものも私どもではさせていただいております。

ほかにもございますけれども、代表的なものは以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、もう反省していますね、私も。みんなのバスは、きのうちちょっと答弁をしましたがけれども、松尾陽輔議員からもありましたけれども、やっぱりこれ武雄のまちの真ん中か、あるいは北方町のロードサイド、国道沿いのところをつながないと乗らないですね。ですので、私、武内はつながっているというふうに思っていたんですね。私もランニングするときにはちょっとこっち向かっていたので、武雄に来ているかなと思ったら、さっき部長に聞いたら、いや、武内町の中で完結していますと。そりゃ、乗らんですばい。ですので、ちょっとそれは僕のグリップ不足だというふうに深く反省をしております。

そういった中で、ぜひ小柳議員様におかれても、こういうふうにしてほしいというふうな声を出してほしいんですよ。何かみんなのバスのそうじゃなかろうもんで言われても、声のなかったら、もう変えようのなかですもんね。ですので、それは私の勘違いもありましたけれども、ぜひそういう意味でこういうふうにするべきだということについては、地元の皆さん、とりわけ議員さんが声を出してほしいなというふうに思っております。すみませんでした。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

バスの件についてはありがとうございました。もっと意見を出せということでございます。どんどん出していきたいと思います。

次に、私が今お尋ねしている、質問をしているのは、買い物弱者という立場から質問をしておりますけれども、そこで、12月20日の佐賀新聞の記事において、佐賀市で買い物弱者対策として実験的に移動販売が行われるということを目にしましたと。移動販売車は兼業農家の方に委託し、日常の買い物に困難である方の手助けを1カ月ぐらい社会実験し、今後の対策に反映させるということでしたと。また、2月26日の記事でも、隣町の大町町でスーパー閉店、お年寄り困惑と大きな見出しで取り上げられていました。弁当1個でも届けてくれる住民密着のスーパーであったとのこと。さらにひとり暮らしの女性80歳の方は、手足が不自由で食品、お惣菜、日用品まで電話一本で配達してもらっていたと。また、夫と2人暮らしで車がない70歳の主婦は、町外に住んでいる子どもに買いだめに連れていってもらうしかないとのお話のこと。

そこで、このような実態を知り質問しておりますが、この記事を見て執行部の方はどのように思われているかお尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

地域によってというか、これはもう、例えば、佐賀市等に限らず、同じ問題を抱えているというふうに認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

以前、武雄市では買い物弱者対策としてではなく、老人世帯、独居老人世帯の見守りとして、いち早く北方町では見守り隊が発足され、安否確認がされておると思いますが、そこで、民生委員さんや老人会の方々、周辺の近所の方々などのネット事業がありましたが、今でも存続しているかお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

民生委員さん方を中心に愛の一声運動ということで、そういった方々を見守っていくということでされておりますし、さらには、今、小柳議員からも御紹介ございましたとおり、北方町において、みんなの見守り隊ということで現在活動をいただいておりますけれども、こういった活動を市内に広げていければというふうに考えておるところでございます。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

愛の一声運動で実施をしているとのお答えですね。ずっと続けられているということだと思います。

もとに戻りますが、買い物弱者の方々の手助けとして、各種の事業の方々、または関係団体等の方々との密な連絡、連携をとり、手助けができないものか、専門員を置き、また、戸別訪問調査を行ったり、郵便配達の方々に一言声をかけてもらい、生存、所存の確認、そのほかに買い物をしてもらうようなお考えはないものか、お尋ねをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

「向こう三軒両隣」と申しますか、やっぱり近所でそういった方々を見守っていただくというのがまず第一かなというふうに思っております。そのほかに、例えば新聞配達の方、あるいは郵便配達の方、こういった方々の御協力をいただく、そういったシステムも今後必要だろうというふうには考えますので、そういったものも研究をさせていただきたいというふ

うに思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長の答弁に補足しますけれども、最近見ると、都会のほうで、例えば、コンビニエンスストアが御高齢者の皆様方に電話一本でお届けに上がるというサービスが始まったと聞いています。NHKの、私、ビジネスポで見ましたけれども、きょうNHKも来ていますからね——どうでもいいか。ですので、そういう中で何を申し上げたかったかという、恐らく電話一本で届けに来るとというのが早晩始まる、届けに来ていただくというのはね、スーパーだったり、コンビニであったり、始まるということと、先ほどやっぱり、でも基本は、先ほど部長が答弁したとおり、やっぱり頼み頼まれる関係を、その地域でないと、やっぱりこれいつまでたってもこの問題というのは解決できないんですね。ですので、一声運動も広い意味では行政です。行政ですので、これもやっぱり限界があるんですよ。ここにだけ届けて、ここだけ届けていないとか、またいろいろ出てきますので。ですので、ぜひ地域の皆さん方にお願ひがあるのは、やっぱりもう一回、自分たちの隣の人は何する人ぞじゃなくて、そういうふうに地域というのは「向こう三軒両隣」、いい言葉ですね。ですので、そこで補い合うということが、昔、沖縄の言葉で言うと「ゆい」という言葉があります。結婚の「結」で「ゆい」という言葉があって、これがもうあらゆる社会生活を行う上での基本だと思っていますし、それでどうしても足りない部分というのが、先ほど言ったような、例えば、スーパーのお届けサービスであるとかコンビニのお届けサービス、なおかつ行政のサポートというふうに思っていますので、ぜひ小柳議員様におかれても、そういったことをその地域でぜひ啓蒙してほしいなというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

周辺部対策、高齢者についてはここで閉じたいと思ひまして、次の項目の安心・安全についてお尋ねをしていきたいと思ひます。

まず最初に、空き家対策ということで、私の質問は空き家の見守りについてです。そこでまず、市内に空き家はどのくらいあるか、またよければ、空き家でも人が住める家とそうでない家、そして小屋だけの空き家、区別がわかれば教えていただきたいと、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

市内の空き家につきましては、平成21年の2月に消防団の御協力を得まして調査を行っております。空き家の合計は235軒でございます。そのうち住める空き家が157軒、住めない空き家が78軒というふうになっておりますが、空き家に関してカウントされていないものがございます。不動産業者とか、それから親類の方が管理されているのは空き家としてはカウントいたしておりません。

以上でございます。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。空き家が住める家、住めない家で幾らですか、235軒ですかね。235ですね。はい、わかりました。

ここでよく皆様方も一緒だと思いますが、最近、空き家の火災の記事が頻繁に載っていると。これは武雄市に限らず、いろんな、新聞も見れば、空き家が火災、空き家が火災と。そしてまた、最近、朝日町やったですか、詳しくは申しませんが、空き家、10年前から使っていない空き家に火の気が出て火災と。また、そういうことを聞きまして、皆さん御承知のとおり、この議会中にもありましたように、きのうおとといですか、武雄のまちで空き家から火が出たと。私はいつも、火災というものは自然火災もあるでしょう、太陽熱で火災とか、あるいは車の火災でペットボトルで火災が起きたとか、いろいろありますが、大半は私は人災ではなかかというふうに考えるわけでございます。

そこで、そのような防止策として、空き家の見守りを実施強化してもらいたいということで、どうかということをお尋ねをしたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

空き家に限った対策ということではございませんが、各町の防犯協会等で見回りをしていただいております。先ほど御指摘のように、ことしに入って2月には若木町の川内区、それから、2月18日、朝日町の甘久区、それから、先般の西浦区での空き家火災が発生いたしております。非常に苦慮いたしておるところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

武内町においても非常に空き家が見受けられますけれども、私の耳に時々入ってくる、時々じゃなしに入ってきたんですけれども、空き家にまだいろんな家財道具とか、骨とうというですか、火鉢とか、いろんなものがあると。それがなくなるというようなこともあるわ

けですよ。そういうことで、火災ばかりではないけれども、やはり地域ぐるみで空き家の見守りと、施錠をしているか、不審者が出入りしていないかというようなことを私感じておりましたので、この質問をさせていただいたわけでございます。

空き家についてはここでとどめて、次の交通（自転車マナー）についてお尋ねをしていきたいと思えます。

佐賀県警交通企画課により発表された平成23年中の交通事故情報をもとに、武雄署管内で起きた人身事故について質問いたしますが、平成23年中に武雄署管内での事故発生件数は531件で、死者は7名、前年に比べて2名ふえております。前年に比べて一番増加しているのが自転車事故で、54件発生し、前年に比べて20件もふえていると。

そこで、増加傾向にある自転車事故の原因はどこにあるのか、まずそこをお尋ねしたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁に入ります前に、先ほどの空き家対策でぜひ議員さんにちょっとお願いがあるんですけどね。先ほどちょっとおっしゃったので、あれっと思ったのは、空き家でこんな状態になっているのは聞いているっていうことをおっしゃいましたよね。聞いているっておっしゃいましたですよ。僕ね、それだけじゃだめだと思うんですよ。議員、私も政治家です。政治家たる者、やっぱりこれあえて名前は上げませんよ。多くの議員の皆さんたちが、私は御用聞きと言って怒られたこともありますけれども、やっぱり地域回っているんですよ。天神だったり、今山だったり、黒尾だったり、どこでしたっけ、回っているわけですよ。そういう中で、私のところにも、私も悪いところあります。議員さんによっては溝がある人もいれば、すごい近い議員さんもいらっしゃいますが、これは私が反省すべき話なんですけれども、そういうことで、いや、ここはこういう何か空き家になっているぞという話を多くの議員さんにやっぱり通報があるんですよ。そういう中で、やっぱり議員活動ということで言えば、これは私も自戒する話なんですけれども、政治家として自戒する話なんですけど、地域を回ってほしいということなんです。やっぱりこれ、例えば防犯協会とか区長さんたちだって限界があります。そういう中でぜひ、そういう意味では北方町の追分の今見回り隊をつくっていますけど、これいい意味で、議員さんたちと区長さんたちと我々行政とその地域の皆さんたちとうまく連携して回っているんですよ。だから、これを議員さんたちに私は押しつけるつもりは全然ありませんけれども、ぜひその一翼を担っていただきたいということで、評論家じゃ僕はだめだと思いますよ、評論家じゃ。それだけ差し迫っているという認識だけはぜひ共有をしていただきたいと思えます。

答弁については、担当部長からいたさせます。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

最近の傾向といたしまして、携帯電話でお話ししながら乗る、あるいはヘッドホンで音楽を聞きながら自転車に乗ると、そういう会話とか、音楽に気をとられた結果、スピードを出し過ぎたり、あるいはわき見運転をしたりというのが最近の傾向というふうに伺っております。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

今、いろいろと携帯電話とか、ヘッドホンとかというようなことが原因になっているということをお聞きいたしました。

そこで、自転車事故と言えば、まず、皆様とともに頭に浮かぶことが、単独事故、複数事故。単独事故は転倒というものがあるかもわかりません。複数事故には人と自転車、それから二輪車及びバイク対自転車、そして四輪対自転車と、このように仕分けられるんじゃないかと私は思うわけでございます。

そこで、私の自転車の事故ということで日本損保保険協会からの資料でございますが、それを見ておきますと、武雄市においてでも人と自転車の事故はないんです。そして、二輪対自転車事故もゼロ件なんです。武雄市では四輪対自転車事故が非常に多いと。四輪対が53件で、前年に比べて22件もふえていると。交通事故というものは主に追突型と交差点型に分かれますが、自転車事故の主になる、事故が起こる、主になる原因はどこにあるのかお尋ねをしていきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

御質問の件につきましては、資料を持ち合わせておりませんので、ごめんなさい、すみません、申しわけございません。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

原因になるものの資料をお持ちではないということですね。はい、わかりました。

私も以前、そういう交通に関係するところで働いておりましたので、大体自転車というものはどういうことかということで思い浮かびますが、それが本当に原因かということでお尋ねしたところでございます。

それで、次に入りますが、昨年の9月の法改正により、神奈川県では一方通行の規制を全国に先駆け試験実行されるそうです。佐賀県においても関係団体による自転車教室や自転車競技大会があって、事故減少に努めておられます。1大会を紹介いたしますと、昨年の10月1日に交通安全高齢者自転車競技佐賀県大会が大和町で行われ、武雄市代表として武内チームが出場され、見事な成績、準優勝されて、個人においても先輩であられる大宅誠一郎さんが優勝、古賀徹之さんが堂々と4位に入賞されています。今までこの大会では、聞くところによりますと、武雄代表チームはいつもそのように3位以上の優秀な成績を上げているとお聞きしております。

そこで質問ですけれども、そのほか、このような大会のほかに自転車教室や大会等があれば教えていただきたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

申しわけございません。先ほどの御質問について資料ございましたので、お答え申し上げます。

主な発生の状況、原因でございますが、人身事故につきましては、54件発生いたしておりますが、安全不確認が28件、横断自転車妨害が7件というふうになっております。

それから、物損事故でございます。これ24件発生いたしておりますが、安全不確認が15件、前方不注意が5件ということで、これは武雄警察署からの資料でこのようになっております。

先ほどの御質問でございますが、市内での自転車の安全対策の取り組みでございます。平成23年度に行いましたのが、交通安全教室、これは4月から7月にかけて市内の11の小学校で実施いたしております。それから、子ども自転車武雄地区大会、これは5月28日に市内の小学校から12チームが参加して実施いたしております。それから、子ども自転車佐賀県大会に、これは7月9日に山内東小学校が参加いたしまして、団体4位という成績をおさめられております。それから、高齢者自転車佐賀県大会、これは10月1日にあっておりますが、武内の老人会が参加されて、団体の2位に入賞されております。それから、ここで個人の部で大宅誠一郎さんが優勝され、古賀徹之さんが4位入賞という非常に輝かしい成績をおさめられております。それから、10月に早めのライト点灯キャンペーンを行っております。

このような形で大会に参加したりして、意識の向上、マナーの向上に努めているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

執行部におきましては、今のようなミスがないように。一般質問においては、資料があるのになというふうなことがないようにお願いします。

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

先ほど原因が安全確認とか、いろいろ出てきましたけれども、ちょっとタイミングがずれまして、次に移りますけれども、このような大会で優秀な成績をおさめられた方と、その人たちに特定するわけではございませんけれども、そういう方々を今度は逆に指導者として、お年寄り、あるいは子どもあたりの自転車教室でも開いてもらいたいというようなことが私のお願いでございます。

次に、自転車にも自動車と同様、反則切符、あるいは警告切符というものがあるとお聞きしておりますが、自転車におけるその違反切符とか、警告カードというものはどのようなものか。そして、どのようなことをすれば違反切符であって、どのようなことを起こせば警告切符かと。その件についてお尋ねしていきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

自転車に対する切符処理でございますが、一般的に自動車の場合は、軽微な違反であれば、交通違反通知書、青切符を渡して、点数を付与する等の交通違反通告制度はございます。ところが、自転車につきましては道路交通法上、軽車両に当たるということで、その制度の対象外で、違反をして切符処理になると、赤切符という交通切符がそういう処理がされて刑事処罰の対象となるということでございます。

そのような赤切符の対象になる自転車の違反についてでございますが、一例を挙げますと、酔っぱらい運転で5年以下の懲役または100万円以下の罰金、無灯火で5万円以下の罰金、二人乗り運転で2万円以下の罰金または過料、このような交通違反の制度がなされておりますが、これの適用に当たっては、客観的な状況や他の違反との重複、それから違反の反復等を考慮して、指導警告にとどめるのか、赤切符で処理するのか判断されるということでございます。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

切符というものがあるということを認識いたします。

次に、自転車に関する保険についてお尋ねしていきたいと思っております。

今、自転車による事故、これの1つの例を皆様方に御紹介をさせていただきますが、成人男性が昼間、信号表示を無視して高速速度で交差点に入り、青信号で横断歩道を横断中の女性、女性は頭蓋骨内損傷で11日後に死亡されたとか。これが賠償金が発生しまして、5,438万円の補償をされていると。これはただ特殊として一つだけかと言えばそうではないと。また、5,000万円の請求をされた方、または、4,000万円、3,100万円、3,100万円というふうな、

これが裁判でこのような大きな金額を加害者になれば請求されるわけでございます。

そこで、私が自転車保険について武雄市の場合はどうのように推進されているかと。

そしてまた、これ非常に難しい問題と思います。もう自転車に乗るのは年齢制限がないんです。もう3歳からでも乗るとは乗ると。というようなことがございますので、これは非常に難しいことだと思うけれども、やはり万が一加害者になった場合は、このような金額が要求されるということを踏まえれば、やはり自転車保険加入も考えるべきではないかと思いますが、執行部はどうのようなお考えを持っておられるかお尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

自転車保険につきましては、民間などさまざまな保険がございますが、どれくらい加入されているかについては把握しておりませんし、また、それを特に推進するというのもいたしておりません。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

わかりました。自転車を購入するときに、できれば購入先あたりの販売店ですか、保険にも入るよというふうなことで一言でも声をかけてもらえるような指導もいいんじゃないかなと私は思うわけでございます。

先ほど自転車乗りというものは年齢制限がないということで私申し上げましたけれども、そこで、教育委員会にお尋ねだと思いますが、中学校では通学時で自転車通学が許可されているところもありますが、中学校には通学時の保険というものがあるか、そして、登校下校時、あと1つは一度家に帰ってから帰宅した後に友達と乗り回すとか、あるいは教育外に自転車を使うような場合がありますが、保険の適用というものがあるか、適用があるならば、そのように今私が申し上げました通学、帰宅以外にも適用されるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

学校の管理外の保険の適用につきましては、今、市内の小・中学校、PTAの保険に入っておられますけど、損害賠償の保険入っておられますけれども、50%の方が入っておられます。管理外につきましては、このPTA保険が適用を受けるということになっています。

なお、平成24年度からは、昨年9月の議会、吉川議員の質問にもありましたけれども、自転車保険という形で損害賠償の保険の推進をするということで今進めているところであり

ます。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。PTA保険で50%の加入率ということでございます。

続いて、教育行政の中で教育委員会のほうにお尋ねをしたいと思いますが、少年補導について質問させていただきます。

武雄市防犯協会は青少年に対して平素、健全育成、非行防止に深い御理解と御協力を賜っていることに対し、厚くお礼を申し上げる次第でございますが、最近の少年非行は多様化、深刻化、低年齢化し、その背景や要因は複雑化していると、そして、昨年は武雄署管内では万引きや自転車窃盗が多発し、非行事件として窃盗や傷害事件で検挙されている、また、少年が被害者となった事案として深夜連れ回しの青少年育成条例違反、下校時における公然わいせつの事案の発生、この種は場合によっては人命にかかわる可能性が非常に高い犯罪となっております。

そこで質問ですが、過去5年間の触法少年が刑事法令に触れる行為の件数、わかれば犯罪少年が犯罪行為をした件数を教えていただきたいと、お尋ねします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

触法少年、それから犯罪少年、触法少年といいますと14歳未満の少年の犯罪、それから、犯罪少年といいますと15歳から未成年ということになりますが、触法少年につきましては、平成19年度はゼロでございました。平成20年が1、21年が1、22年が2、23年が4というふうになっております。それから、犯罪少年でございますが、平成19年が54、平成20年が42、平成21年が45、平成22年が36、平成23年が63というふうになっております。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

今、早口でぽっぽっぽと御説明を受けたけれども、私の頭の中には入ることはできませんでしたが、ゼロではないということを確認しております。

犯罪少年は平成23年は63件で、これは平成23年中の少年補導のまとめから私はお尋ねをしているわけでございます。63件で、犯罪件数が上昇きみと。触法少年も件数は1けたであります。5年前からはふえていますと。

それでは、触法少年の非行の内訳について、罪種別ではどうなっているか、前年に比べてはどのようになっているか、また、年齢別、男性、女性の件数はどのようになっているかお

尋ねをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

触法少年の男女比でございますが、平成23年度の4名中、男が2人、女が2人というふうになっております。それから、犯罪少年につきましては、男性が49、女性が14というふうになっております。

犯罪の種別につきましては、私の持ち合わせている資料についてはそこまで分類されていないということで、はっきりわかりません。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

そこで、教育委員会にお尋ねいたしますが、学校ではこのような問題行動が発生している子どもたちに対して、どのように対処し、どのように指導をしているか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

先ほどの部長のほうからお答えした数の中に、六十数名中の二十数名は市外の子どもたちも含まれておりまして、そこは踏まえておきたいというふうに思います。

といいながらも、減っているというわけではございません。そういう面で、その前段階であります義務教育の段階でも気を配っているところでございます。もちろん問題行動を起こした場合には、スクールサポーター事業とか、スクールソーシャルワーカー事業、あるいは警察との万引き対策連絡会等々で対応、事前もですが、含めて対応するわけでありまして、何よりもそういう問題行動等への目が行かないような事前の指導が大事かというふうに思うわけでありまして、より魅力ある学校にしていきたいというふうに思うわけです。若いエネルギーが誤った方向に行かないように、例えば、部活動の充実であるとか、あるいは保護者の方、PTAの方と一緒にいった、例えば、武雄中なんかでは武中の力実行委員会とか、実際に一緒になって見守っていただいておりますし、もちろん学校では担任とか生徒指導主任を中心に生徒指導の充実等々いたしておりますし、発生に至らないように、あるいは北中の夢プロジェクトもそうだと思いますけれども、やはり学校自体、学級自体、友達同士で取り組める、そういう体制を基盤に置いて、そして、問題行動が起きたときも連携しながら対応できると、そういう体制づくりを進めていきたいというふうに思っておりますし、現在も多

くの方に心砕いて対応していただいております。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

次に、いじめと不登校についてお尋ねをしていきたいと思えます。

いじめと不登校について質問しようということでございましたけれども、武雄市の場合は、私がいじめと不登校について質問しますよという前に、いじめについては武雄市の小・中学校では一件もなかったということで、これは非常にうれしいこと、喜ばしいことではないかと。教育現場に携わっている先生方や教育委員会の方々、何といたっても保護者の方々の連携と御理解ではなかったかと。今後ともいじめに関してゼロということが続けていってほしいと、このように思うわけでございます。

そこで、不登校の実態はどうなっておるか。県下の状況は、不登校の児童・生徒数は小学生118名と、1,000人当たり2.3人、中学校は198人、1,000人当たり25.4人。1,000人当たりの不登校児童・生徒は10.3人で、佐賀県は全国的には13番目に少なかったと報道されております。

そこで、武雄市の不登校の実態について、数値的にお答えを願いたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

冒頭触れられましたいじめにつきましては、いじめがないということはないということで、早期発見、早期対応ということで、こちらにきちっとして報告されたものがゼロということでありまして、学校では子どもたち同士の間でありますので、対応しているというところでございます。

お尋ねの不登校につきましては、1月現在で小学校5名、中学校37名というふうに報告を受けているところでございます。これはいつもの統計上、30日以上欠席者ということでございます。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

今、30日以上の方が5名と37名というようなこととお答えいただいたんですけども、この不登校の原因はどこにあるのかと。そしてまた、その原因に対しての、教育委員会初め先生方一生懸命に対策として頭練っておられると思いますが、その指導、対策、解決策はどのようにされておるかお尋ねしたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

これまでの議会におきましても、非常に大きな課題としてこの不登校については取り上げていただけてきました。その不登校の背景、原因となるものでありますが、単一という例は少ないわけでありまして、友達関係であったり、あるいは学力不振であったり、家庭での状況、あるいは非行に走ってといういろんなのが複合的に絡んでいるという例が多いわけでございます。

これまでも対策としては御説明してきたところでありますけれども、4名のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとして1名、それから、訪問支援員として2名の方が当たって、専門的な立場から指導してもらっております。もちろん各学校では担任を中心に体制を組んでやっているとございまして。先ほどの問題行動にしろ、この不登校にしろ、やはり来たくなる学校、学級、そういうのを基盤とするということで、一人一人により存在感を持たせる学校へということで頑張ってもらっているわけでございます。一例挙げますと、土曜日の学習会につきましても、やはり学力面で自信のない、あるいはもうちょっと頑張ればできるんじゃないかと、そういう面で学力不振への対応の意味も含めて対応してきたわけでございます。

そういうことで、地域の方、あるいは保護者、PTAの方々の応援もたくさんいただきながら、現在の段階では、昨年度よりの減少ということの成果につながっているものと把握しております。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

次に、各学校の施設管理についてお尋ねをしていきたいと思っております。

各学校には校舎並びにグラウンドの周辺には急傾斜及びのり面でボランティアにより草刈りが実施されているというようなことで、まず、各学校のこのような周辺部の清掃についてはどのようになされているか、まずお尋ねをしていきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

学校施設周辺の管理につきましては、樹木の剪定とか、危険箇所の作業、そういうものにつきましては、基本的に学校管理費の予算の中で業者、あるいはシルバー人材に委託をしているというのが基本であります。

そのほかに先ほど申されましたけれども、ボランティアという形でPTAの皆さんが御協

力いただいたり、あるいは地域によっては、まちづくり推進協議会、そういうところでボランティアで御協力いただいているというところもございます。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

今の答弁でボランティアというようなことでお願いをしております。当然、学校管理の経費でしておられるということですが、私はよくわかりませんが、そのように各種団体が清掃、掃除をされると。特に私の場合はのり面をお尋ねしているんですけども、そのときによく油代とか、軽トラックとか、いろんな草刈り機とかを持ってきてもらえるのが生じるわけです。それで、私が、草刈り機とかというんじゃなくて、それにかかわる経費、このようなものは経費を出しておられるのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

先ほど申し上げましたように、PTAで行っていただくときにはPTAの会費の中で出しているというふうに思っていますし、ボランティアのまちづくり等でやっているときには、その団体で油代と燃料代等については負担をされているというふうに聞いております。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

それでは、各種団体でそのようなもの、油代とかは見てもらっていると解釈していいんですね。はい、ありがとうございます。

今度は、もし、各種団体、ボランティアで、これはしてもらったことにこしたことはないですが、これを余り急傾斜がために、重労働のために、ちょっとおろんが手では手のつかんざいというようなことで、これをちょっと辞退したかと言われて、するような方がいなかった場合はどのような措置をとれるのか、お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

除草で危険を伴うというような場合につきましては、どうしてもシルバー等のほうで難しいという形であれば、学校教育、学校管理の予算の中で業者等に発注をするということもやっております。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

そして、この施設管理、最後のお尋ねですけれども、このようにボランティア、あるいは各種団体に協力を得て清掃する、整頓すると。そこに必ず草、あるいは雑木、残土が残るわけですよ。先般の質問の中でもありましたが、燃やしてはいけないと、生木は燃やしちゃいけないと。生木はできるだけ乾燥させて、煙が少なくなるようになってから燃やしなさいというようなことだと思いますが、ここで草木、特に木、生木、それから今度は残土、これはどこで処分するのか、ちょっとお尋ねしたいと。実は、これは農業関係とか建設関係もあると思いますが、私も何回とも経験しましたが、残土はどこに持っていった方がいいのか、産廃は別にしてですね。雑木はどのようなところで処分していいのか、お尋ねをしたいと。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育部長

○浦郷教育部長〔登壇〕

基本的には学校敷地内のほうで処理しているわけでありまして、どうしても処理が不可能という場合につきましては、学校と一緒に考えていきたいというふうに思います。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

学校と一緒に考えると。考えても捨てる場所がなければ、そのまま放置せざるを得ないと、このようになるね。この件については、また、後ほど問いただしていききたいと思います。

最後になります。最後の質問で、飛龍窯の件についてお尋ねをしていきたいとします。

2月11日、12日と、TAKEO・世界一飛龍窯灯ろう祭り、これは本当に大成功に終わったんじゃないかと、こう私は認識をしておるわけでございます。

その中で実は私は11日の1週間ぐらい前に、長崎のほうにちょっと出向くことがありまして、ちょうどそのときはランタン祭りの最中でありました。そこで昼食をいただくときに、「何でことしはお願いしや来んと」と私に言われたわけでございます。いや、今回からは執行部がしっかり回りよるよというようなことで、今度はランタン祭りと一緒にならんけん多かばいねと、灯ろう祭りも多かばいねというようなことで、大分私も声かけようよということで、中華街の商店の方から聞いたわけでございます。

それと、あと1つは、じゃ、歩いていったならば、長崎の駅のところに広告を置いてあるところがあります。一番最初に目についたのがこの絵なんです。（チラシを示す）字はわかりませんでした。しかし、この色、だれでもが先になって、いろんなイベントのチラシがありますが、一番目映りがいい絵なんです。私もびっくりしましたですね。（発言する者あ

り) 何て。

〔市長「私語を慎んでください」〕

何て。

○議長（牟田勝浩君）

継続してください。私語を慎むように。

○16番（小柳義和君）（続）

私はこれ見てびっくりたまがったわけですよ。ああというようなことで、非常にインパクトがあるチラシではなかったかと。

そして、あるとき、また、佐世保駅に立ち寄ったところ、佐世保駅にもこういうものが置いてありまして、非常に宣伝効果があったんじゃないかというふうに思っておるわけでございます。

そしてまた、この日にち、この成功に終わったのは、まず、執行部の方、あるいは地域の御協力のもとによって大盛會に終わったと。

それから、天候も加勢したんじゃないかなと、天気も加勢したんじゃないかなというようなことで、私ながらに考えておるわけでございますが、そこでお尋ねですけれども、11日と12日の入場者数は、これはもう私が目で見ても、もう3倍、4倍、もっとあったんじゃないかなと思います。お尋ねをしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

（モニター使用）これが当日の様子です。これは多分夕方4時ぐらいだと思いますけれども、来場者数は両日で3万人、昨年1万2,000人の2.5倍の集客があつて、盛況だったということです。アンケートによると、来場者の割合は県内は54%、武雄市が17%、佐賀市12%、この2つが多いということです。県外は100引く54の46%を占め、特に福岡県が27%、長崎県が13%からの集客が伸びています。そして、これはフェイスブックの力だと思いますけれども、北海道だったり、関東だったり、さまざまところからお見えになったというのが今回の特徴です。

じゃ、何でこれが成功したかという、きれいなんですね。きれい、きれいです。もうこれ、ユーストをごらんになられている方々は、これよりも実物がきれいです。普通は写真のほうがよかですもんね。でも、これは写真よりも実物のほうがきれいです。こんな感じですね。こういうことで、いろんな自然の光とこういうLEDを中心とした電飾、環境とか電力に配慮したことをやって本当に大きく伸びてきたと。

この場をかりて、地元の方々に非常に協力をしていただきました。武内町の黒牟田の周辺であつたりとか、オール武内で本当にいろんな事前の、これ1年ぐらい準備かかるん

ですね、さまざま準備していただいたこと、そして並びに、これは身内のことを言うのであれですけれども、うちの犬塚君を中心として、本当に観光課の職員、営業部の職員が一体となってやってくれました。本当にこういう熱意が今回の成功に大きく寄与したのではないかなというように思っています。

後ほど御質問があらうかと思えますけれども、ただ、いろんな課題も浮き彫りになっていますので、これについては丁寧にまたその改善に向けて、また1年ぐらい、およそ1年ありますので、それは地元の皆さんであるとか、いろんなここに来られた方々でもいろんな意見が来ておりますので、耳を傾けて改善に努めてまいりたいと思っております。

重ねてではありますけれども、これごらんになられている方々は、来年はただで御招待をしたいと思えます。というか、ただですので、ぜひお越してください。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

はい、ありがとうございます。

そこで、非常に成功のうちに終わったというようなことで私認識しておりますが、このように改善してもらいたいという御意見も来ておりますので述べさせていただきますが、シャトルバスの回数をふやしてほしかったと。そして、そのシャトルバスが乗車させず通過したことも多かったと。また、観客数が多かため、1時間以上も待ったと。そして、それに乗ることができなかつたものだから、歩いていったと。歩いていったときに、足元が暗かつた。また、いろんな要望だと思えますが、仮の駐車場を近くにつくってもらいたかつたね。そしてまた、トイレが少かつたというような声が届いておりますが、今私が申したところで、執行部の方のお考えをお願いしたいと思えます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、そうなんですよね。やっぱりこれだけ来る、お越しいただくというのは、ちょっとやっぱり夢にも思っておりませんでした。これちょっと宣伝が効き過ぎて、チラシがよかつたというのもあるんですけど、もう一回ちょっとモニターをすみません。（モニター使用）これをつけながら答弁しましょうね。きれいでもんね、さっき言いましたね。それで、確かに問題点というのは我々全部実は把握をしておりますので、例えば、シャトルバスの本数であるとか、時間帯であるとかというのは、ことしの反省をもとにして、来年また計画を立てていきたいと思えます。

ただ、私がうれしかったのは、これちょっと名前を上げて非常に恐縮なんですけれども、山口昌宏議員と古川盛義議員なんです。実際この問題というのは、当日、特に土曜日でし

たっけね、私のところにもこれもう1時間待ちになっているぞといった話で、例えば、古川盛義さんは、もう私がちょっとお願いをして、実際車で乗せてくれたりしたんですよ。これ白タクじゃないですよ。大丈夫ですね。ですので、あと昌宏議員さんは土曜日にこういう問題が発生したので、日曜日にいろんな手配をしていただきました。だれか駐車場の整理しよんねと思ったら、盛義さんと昌宏さんが並んでしよんさったですもんね。ですので、やはりもう本当に地元の議員さんに申し上げるのも恐縮なんですけど、もし、そういう問題があった場合には、やっぱり即座に議員力に対応してほしいんですね。そこで足らざる部分というのは、先ほど御指摘賜ったように、それは来年度に向けてきちんとやりますので、そういった意味での御協力をまた来年、100%というのはあり得ないんですよ。恐らくこれ、ことし3万人で、来年多分5万人ぐらいお越しいただくと思います。これ必ずそうなるんですね。リピーターと、また、これ今回改めて思ったんですけど、フェイスブックとか、ツイッターで画像をつけて、この場で今来てと言ったら、私がやっただけでもやっぱり100人ぐらいお越しいただくんですよ。それぐらい、今、何ていうんですか、この画像というのは力があります。もちろん中身もいいですので。そういう意味での小柳議員様におかれましては御協力方をお願いしたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

16番小柳議員

○16番（小柳義和君）〔登壇〕

ありがとうございます。これで私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（牟田勝浩君）

以上で16番小柳議員の質問を終了させていただきます。